

新建築家技術者集団 愛知支部
2018年度 支部総会 <決議案>

共に生きる、共に暮らすという「協同」へ

～社会性を育む→連帯→個人の技能が高まる～

1. 社会と建築界の情勢と求められている建築技術者

(1) 社会情勢から見えること

いまだ建築業界のみならずデータの数值改ざんや偽装問題は、利益至上主義の弊害であり、安心安全を守る住まい手の立場にたった、建築技術者の信頼が大きく揺るがすものである。

まじめに継続的にやってきている設計者や施工業者への影響も大きい。

今日も当たり前のように行われている重層下請方式という構造的な問題も限界があり、技術の継承や施工精度・強度や天候よりも利益・工期優先での施工にも疑問がもたれる。

新国立競技場建設では、予算超過の後、その建物を作る建設労働者にしわ寄せがくると予していた通り、現場監督の若い建築技術者の自殺となっても、過酷な労働環境が変わらない。

福島第一原発の凍土壁に345億円使って、汚染水漏水問題が半減とあっても、原発の再稼働を推進する。そこで働く下請けの作業員たちの安全などは全く関係なく、安全である外部で手数料だけ撥ねる仕組みも人材派遣会社とほとんど変わらない。

また、分譲マンションでの民泊でも許可なく行われて、管理組合や住人の安全よりも利益。待機児童問題がある中でも、地域での保育園の建設反対運動など社会的課題も山積みです。

中小零細企業の建築関連企業や個人の建築関係者の多くは、引き続き厳しい状況であり、その中でも、横のつながりでなんとか仕事をこなして、やっと食べていけている状況です。

大手企業であっても人を育てる余裕がない中、社員旅行もなく、仕事後の一杯での交流もなく、注意をすると辞めてしまう若者、社員交流会に参加してこない人たちとの仕事では、失敗談の経験話や技術の継承はじめ、今後色々な所でしわ寄せが来ていることが目に見えます。

新建として、新建会員として、我々はもっと具体的に知り、発信していく必要があると同時に、おかしいと思わないかとの疑問を投げかけていくことも大切です。

(2) 我々がめざす建築技術者と新建の役割

今日、住まいや建築に関する多くの情報があふれ、何が自分にとって必要で正しい情報か、わかりにくく、多くの人々が判断に迷っている。そうした数々の分野で、要求を持っている住民・市民に、真に寄り添い応える建築技術者が求められている。

しかし、住民の立場に立っているように見せかけて、実は自分の都合や利益を優先している場合も多い。社会全体が利潤最優先の競争原理の構造となっていることもあり、建築技術者個人の力だけでは本来のあり方に立ちきれない。だからこそ新建のような組織が、個人個人を律し、意識を高める活動を行うことが必要ではないか。自分の周りの建築関係者の人にもきちんと丁寧に説明をして、伝えていくことが重要である。

(3)社会や会員とのつながりを深めていくこと

「新建」に入会した時の初心にもう一度立ち返ってみたい。

そもそも新建に入った動機は、「多少とも社会に貢献したい」気持ちがあったのではないか。愛知支部は、この間の幹事会の討議で、会員一人一人その初心に立ち返り、その思いを大事にすることを大きな目標とした。

また、なかなか顔の見えない支部会員の仕事や経験を聞く機会を設けるようにする為に、仕事を語る会の講師依頼や事務所訪問など、丁寧な声掛けで、つながりを作っていく。

自分の周りの建築関係者、職人さんにも声を掛けていこう。

職人不足や人材不足、高齢化などが言われる中でも、きちんとした技術をもっている職人さんとのつながりを作っていく。

(4)これから関心を高めたい社会情勢(第31回全国大会決定より)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 地方創生という地方切り捨て | 2. 公共施設の統廃合 |
| 3. 特区による地域こわし | 4. 増大する空き家の問題 |
| 5. 歴史的建築物や街並み・景観の保存運動 | 6. 住まいの貧困 |
| 7. 高齢者・障害者福祉・子育て支援 | 8. 2020年オリンピック大型施設問題 |
| 9. 改ざん・不正工事 | 10. 建築関連行政(省エネ法など) |
| 11. 建設労働者と職人教育 | 12. 工務店や設計事務所 |
| 13. 災害・復興・原発 | 14. 平和と人権 |

2. 2年間のとりくみ総括(前回総会(2016年5月)以降)

・様々な活動を通し、全国の支部に比べ、支部の活性化は、少しずつ進んでいる。

企画や声掛けにより、少しずつ会員と友好的な方も増え、世代交代にも繋がると期待できる。支部財政も厳しいので、新しい仲間や建まち誌の読者、賛助会員の拡大は、必要である。毎月、支部会議開催と支部ニュースの発行を継続して行い、会員に情報を発信している。

(1)企画「わがまち見学会」、「建まち誌学習会」を、引続き行ってきた。

企画の年間スケジュールの目標を作成し、複数体制で企画を継続的に行うようにした。

会委員以外の方も参加しやすい、自分がやりたいことや知りたいものを企画してきた。

今後は、「仕事を語る会」に比重をおき、顔の見えない会員の情報の共有や経験の交流をしていきたい。

参加者がまだまだ少数であり、「防災連絡網」を活用して、丁寧な企画の誘い方・声掛けを再考していく。

(2)会員と読者・賛助会員の拡大

「愛知支部の仲間になりませんか」と「新建加入のお誘い」と「建まち誌」を活用した。

2011年大会時37名、2013年大会時36名、2016年大会時29名で、現状が31名。

愛知支部の規模を運営(財政的に)していくうえで、目標を50名とした。そのうえで、幹事みんなが自分の周りを意識して、まずは40名の仲間を増やしていけるようにしてきた。魅力的な支部にすることも大切。仕事上での悩みも相談できる仲間づくりをめざしてきた。

(3)「連絡網」の活用

幹事用の防災マニュアルの連絡網を使つての会員への連絡が不十分であつた。

「防災マニュアル」に名前のある幹事は、日常的な連絡網としてもっと利用する。

これからも会員の拡大と併せて、新建を辞めない会員の活動や経験の声を大切にしていきたい。

(4)他団体との協力協同

継続的にかかわり、成果が出てきている。今後も一緒に企画や講演会を開催していく。

- ①愛知消費者大会の実行委員 担当：平手→奥野
- ②居住福祉ネットワーク東海 担当：福田
- ③田園都市協会 担当：福田（古田・倉知）
- ④建築組合大工若手の会 担当：甫立
- ⑤愛知サマーセミナー 担当：壬生

今後の課題として、建築士会、JIA 他の建築団体、豊橋地域への会員拡大、職人等への声掛けがある。

(5)「新建愛知のあゆみ」の活用

支部名誉顧問の尾鍋氏を講師として、「新建愛知のあゆみ」の普及と勉強会で活用した。

「わがまち見学会 in 有松」でも講師をお願いして、町並み保存の活動の経緯を聞きました。

(6)東海・北陸ブロック会議、セミナー

中部ブロック会議 2016年5月21～22日 in 富山 くれは山荘 参加者：27名

中部ブロックセミナー2017年9月16～17日 in 岐阜 牧歌の里 参加者：28名

3.今期の活動方針

活動方針の基軸として

- ①「共に暮らす」「協同する」に向けて新しい建築運動スタイルの構築
- ②これまでの新建活動の総括（50周年に向けて）
- ③組織の世代継承

新建50年のとりくみの歴史を学び、社会の変化から建築とまちづくりの課題を読み取る力や、住民に真に寄り添う建築技術者の力量をさらに高めための活動を軸に据える。

そのために、要求をくみ取れる知性と感性、これに応えられる技術力が必要となる。

知性・感性と技術力を組織と個人で高める方針として、以下の3本の柱を掲げる。

(1)住民に寄り添う感性と技術力を高めるため、組織として取り組む

新建活動を通し、支部を魅力的にして、やりたい・知りたい・楽しい企画や勉強会等を通して、仲間を増やす。「建まち誌」を持参して、「読者会員」・「賛助会員」も声掛けをする。

- ① 今すぐには役に立たない文化講座「建築とまちづくり誌学習会」を継続する。
 - ・「今すぐには役に立たない文化講座」は感性を高めるための絶好の企画であり、「建まち誌」学習会は技術力を更に高めるきっかけとなる企画である。
 - ・更に内容を充実させるよう、みんなで事前の準備を行う。

- ・参加者を広げるため、自分の周りの人にも声を掛けるように取り組む。
- ②仕事を語る会（実践発表会）を活発に行い、組織としてのスキルアップを目指す。
 - ・会員一人一人を大切に活動として、日頃の実践の発表や情報や経験の共有をする。
 - ・また各会員の日常の仕事を交流することは、新しい発見や刺激にもなる。
 - ・普段、顔の見えない会員に講師をお願いして、企画に誘う場にもなる。
- ③会員相互の交流を更にはかる
 - ・会員相互間での電話やメーリングリストを活用し、気軽に電話できるように交流をする。
 - ・支部ホームページの充実や SNS の利用をはかり、情報を発信する。
 - ・幹事は連絡網を利用して、企画など顔の見えない会員や周りの人に声掛けをしよう。
- ④東日本大震災・熊本地震への支援と、予想される東海・南海トラフ巨大地震に備える
 - ・「防災マニュアル」を更なる充実をして、家族や仲間と準備をして、周りに広めていく。
 - 防災マニュアルは、支部連絡網として利用する。全国にも広めて、意見交流もする。
- ⑤組織全体の力量向上と愛知支部の存続発展のため拡大に力を注ぐ
 - ・住民から期待され応えられる組織となるため、また高齢化している愛知支部の将来の存続発展のため、若い会員に積極的に声を掛けて、拡大することが大切な課題となっている。
 - ・企画を通じ丁寧な声掛けや建まち誌の購読者を増やし、企業の賛助会員を呼びかける。
- ⑥会員同志での仕事の協同
 - ・仕事や事業を共同して取り組む体制を模索するために、経験値を積み上げる。
 - 「古民家再生プロジェクト」などの活動を通していく中で、ベテランと若手の技術経験交流をする。
 - ・企業のメーカー担当者や職人さんなどの情報を共有化していくリストを作成する。
- ⑦全国研究集会 in 犬山
 - ・愛知で開催する全国企画を通して、支部内のさらなる団結と継承、また会員拡大を図る。
 - ・岐阜支部と三重支部と共に準備を行い、近県支部との交流を深める。

(2)住民に寄り添う感性と技術力を高めるため、会員個人として取り組む。会員同士の交流をする。

建まち誌・新建叢書・書籍を活用する

- ①「建築とまちづくり」誌をよく読む。
 - ・建まち誌は内容が非常に充実しており、対外的にも評価が高い建築誌となっている。
- ② 新建の全国企画、支部企画に積極的に参加する。参加しやすいように援助をする。
 - ・新しく入会した人やまだ参加したことのない会員も誘い、一緒に参加する。

(3)他団体との協力協同をはかり、更に外へ打って出る

個人（会員）が他団体の中に入り、地道に継続的に活動を続ける。

その上で、その団体と協力しながら、新しい活動の巾を広げていく。

- ①愛知消費者大会
- ②居住福祉ネットワーク東海
- ③幹事は何らかの市民団体に関るように努力する。
 - ・会員が少ない団体でも幅広く関わる。
 - ・「情報の共有化」をはかるため、関わっている団体の様子の報告会を行う。
- ④幹事や会員の身の回りの団体、グループとの日常的な交流をはかる。

各会員が関わっている他団体は以下がある。(主な団体)

- ・あいちの木で家を造る会(福田)、
- ・ACC(福田・奥野)、
- ・愛知建築士会(福田・壬生)、
- ・NPO 欠陥住宅をつくらない住宅設計者の会(滝井・丹羽・甫立)
- ・NPO 住まいのホームドクター/設計者の会(滝井)、
- ・都市と山村交流スローライフセンター(河合)、
- ・千年持続学校(河合)
- ・マンションサポート研究会(中森)、
- ・建築組合連合会大工若手の会(甫立)

上記の会員の参加する団体と情報や経験を共有して、日常的に交流を深める。

⑤ 新建愛知として、更に社会的にアピールする活動を行う

「新建愛知」を知ってもらうには、まず、個人が他団体で地道に活動を行う。その上で、「新建」を知ってもらえるようにする。問題提起をする力量を高め、各他団体に知ってもらう。

⑥ 社会的な問題に取り組む活動を行う。

住宅2020年問題、リニア問題、愛知の経済特区問題の取組への参加や勉強会開催など。

⑦ 建築以外の分野との交流や連携・協力を強めていく。

4.その他

① 新しい愛知支部の集まる場所(サイドビル4階401号室)をおおいに活用している。

相談活動を支部として、組織的に取り組む。

② 新建支部運営の勉強会を行う。

◆ 2018年度 愛知支部幹事<提案>

支部代表幹事	福田 啓次(再)	(住生活環境研究所)	全国幹事
支部事務局長	甫立 浩一(再)	(株宮工務店)	全国幹事
支部幹事 (五十音順)	奥野 明美(再)	(オフィスタック)	
	河合 定泉(再)	(河合建築)	
	黒野 晶大(再)	(黒野建築設計事務所)	
	中森 重雄(再)	(ジグザグ建築設計事務所)	全国幹事
	壬生 伸次(再)	(壬生建築設計室)	
	嶋田 英享(新)	(嶋田英享建築設計事務所)	
支部名誉顧問	尾鍋 昭彦(再)	(元愛知工業高校教員)	前支部代表幹事